

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】〔小学校用〕

都道府県名	山形県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	藤島町立藤島小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	2	2	1	15	20
児童数	58	65	71	69	55	73	1	392	

研究の概要

1. 研究主題

『 学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につけさせる指導法の工夫 —— 算数科のTT指導、少人数指導を通して —— 』

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・ 5年生算数 児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため

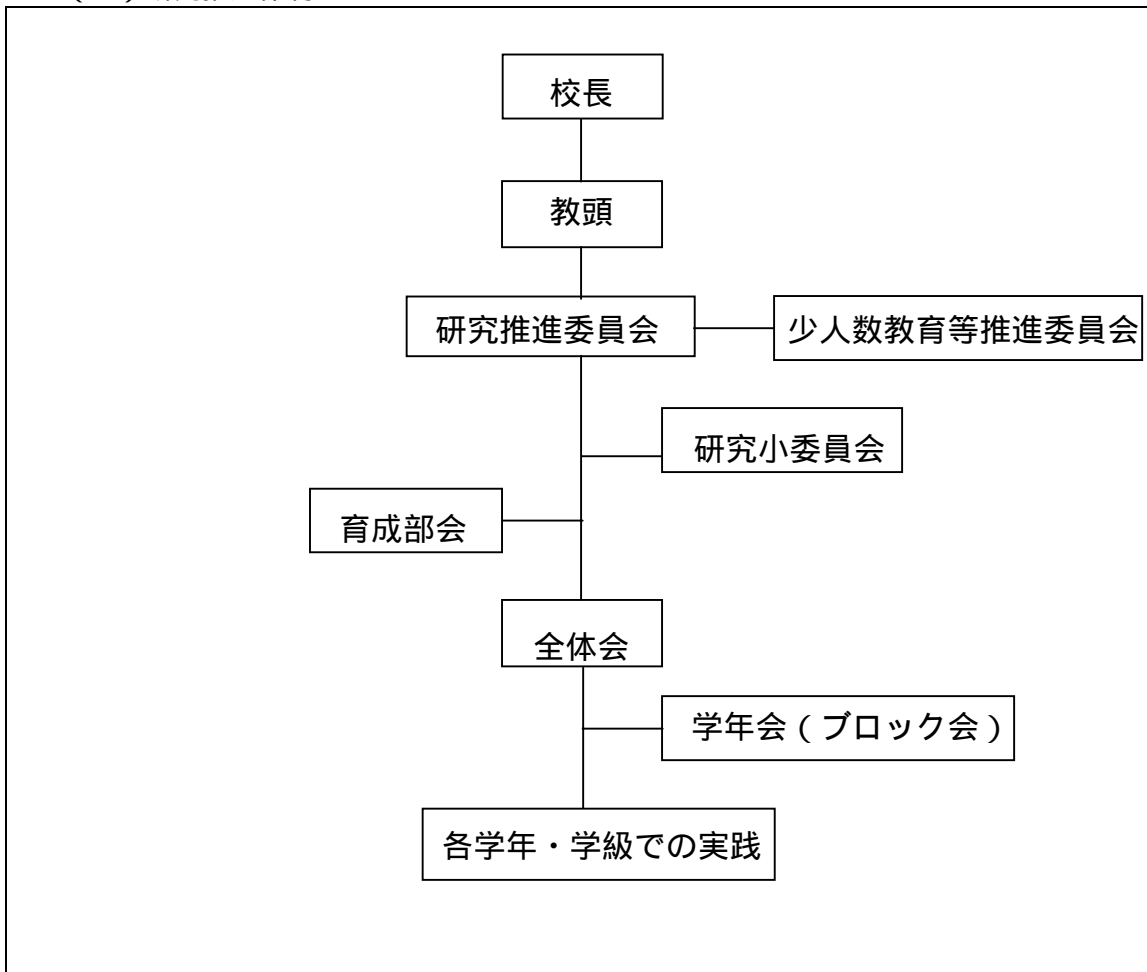
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>〔1〕 <u>学びの喜びや充実感と共に、学ぶ意欲を高めることについて</u> 「分かるので楽しい」「友達と一緒に勉強ができて安心」等、主体的な学びの喜びが日々の学習の土台となり、さらにその後の学習に対する動機付けを高めていると考える。この前提に基づき、児童の“興味関心・思いや願い”について重視していくこととした。</p> <p>学習に対する客観的な児童の意識アンケートをとり、評価と指導に生かす。 児童に学ぶ目的を持たせ、見通しを持って学習に臨ませる。 授業の中の生徒指導機能を十分に発揮する。</p> <p>〔2〕 <u>個に応じたきめ細かい指導で確かな学力を向上させることについて</u> 複数の教師が多様な方法で1単位時間を指導し、個に応じたスモールステップの課題を中心に基礎基本・補充・発展学習を繰り返していけば、学びの充実感と共に学習内容が定着し、学び方が身に付き、確かな学力が向上していくと考えた。</p> <p>1単位時間をおおよそ3つに分けたそれぞれの段階を、形態を変化させながら指導していく。 導入段階・・・T1 T2 役割指導 展開段階の前半・・・一斉全体指導と個別指導 “ ” の机間指導時・・・少人数指導 終末段階・・・習熟度別少人数指導</p>
--------	---

平成 15 年度	<p>1 単位時間あるいは単元全体の中で、評価を生かした支援や指導を行う。</p> <p>1 単位時間内では、座席表活用評価・チェック問題評価・児童自己評価を行う。</p> <p>習熟度別少人数指導によるまとめの時間を 1 単位時間増やし、個に応じた学び直しの時間を設定する。</p> <p>単元最後の課題別少人数指導で、補充学習を利用して学習した基礎基本を徹底させることや、発展的な学習等を行う。</p> <p>教科時間や特設補充時間の中で、学年毎に抜き出した基礎学力を、全員に確実に定着させる。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>児童に対する実態調査の結果から、より確かな学力を身に付けさせるために、主題はそのままで、教科と領域を算数（数と計算）と国語（話すこと聞くこと）に広げる。</p> <p><u>学びの喜びや充実感と共に、学ぶ意欲を高める工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材開発 ・指導法の工夫 <p><u>基礎基本の定着と確かな学力の向上を図る工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・T T 指導 ・少人数指導 ・スキル学習 <p><u>次につながる評価の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準の整備 ・評価の方法 ・評価の生かし方
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

〔1〕学びの喜びや充実感，学ぶ意欲について

習熟度別で児童が安心，集中して学習できたし，効果も上がった。
単元の見直しを持つことが意欲をうみ，主体的な学習を展開することができた。
集中力に欠ける児童，理解の不十分な児童への個別指導が効果的だった。

“学ぶ意欲”について（意識アンケート調査より）（5年 28名）

グループは自分で決める	4.1点	3.7点
グループは先生が決める	2.9点	2.8点
分からないときは先生に聞く	2.7点	3.4点
先生が2人いる授業がいい	2.8点	3.7点

* 習熟度別少人数指導のグループ編成は，自分で決めたい割合が下がってきた。自分で決めたいと言う思いそのものは変わらずに強いが，評価Bのように相談して決定する良さに気付き，安心して学習に取り組んでいると思われる。

* TT指導や少人数指導に慣れ，分からないときはすぐ質問したり，数多くの問題に取り組めたりする充実感を感じているようである。自由記述でも先生が2人いるのが良いとする子が多かった。

〔2〕個に応じたきめ細かい指導について

グループ別になることで，個にあった学習ができる。
下位の児童は少人数学習の方が一斉での学習よりも意欲的である。力も付いてきている。

つまづきを発見しやすく，すぐに対応できるようになった。

1単位時間の中味が濃くなった。（問題を多くこなせた）

手を十分かけられ，児童に力がついていく様子が目に見えて分かり，指導する側としても張り合いがある。

“観点別到達度評価”について

（「学校図書版 観点別到達度【力だめし】評価問題例」使用）より

		（7月）	（12月）
5年	思考	B	B
	表現・処理	B	B
	知識・理解	B	A

* 表現・処理，知識・理解とドリル，スキルのな力が向上している。TT指導や特に1単位時間内での習熟度別少人数指導の授業パターンに慣れ，2人の教師によるきめ細かい指導や数多くの補充問題に取り組む手立て等で，成果が上がっていると思われる。

2. 今後の課題

TTの効果的な指導や役割について，より具体的に話し合う機会を定期的に持つ必要がある。

習熟度別指導にした場合，その題材のねらいや到達度を明確にしていかなければならない。

難易度別のスキル学習の問題作成が必要である。

習熟度別学習といっても，そのグループの中でも習熟度や理解力に違いがある。かなり学力が落ちている児童は，別の場でのフォローも必要である。

確かな学力をとらえなおし，広く他教科でもTT指導を行っていきたい。

主体的な学びにつながる学習意欲を他教科にも広げさせていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

学ぶ意欲・態度面

- ・児童「“学ぶ意欲”意識アンケート調査」(6月・2月)
- ・教師「“成果と課題”アンケート調査」(7月・12月)

学習内容理解・学力

- ・標準学力検査(4月) ・到達度学力検査(2月)
- ・観点別到達度評価〔学年共通〕(7月・12月・2月)

評価規準にてらした評価

- ・評価規準作成(「数と計算」領域中心)(3月予定)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・10月10日町内および庄内地区フロンティア実践校対象授業研究会開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 6学級以下 | <input type="checkbox"/> 7～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13～18学級 | <input type="checkbox"/> 19～24学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 25学級以上 | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 算数 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 生活 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |